

東京都は東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟を主体として、各学校でスポーツが積極的に取り組まれている。春は陸上競技、夏から秋にかけてはボッチャ競技、秋から冬はハンドサッカー競技と、それぞれの大会に合わせて各校が部活動を盛んに行うようになってきた。

そのため、体育連盟では各競技の指導者を育成すべく、指導者講習会、審判講習会なども計画的に実施している。

特に都の肢体不自由特別支援学校では、独自でつくり上げてきたハンドサッカーに対する思いが強く、とても盛んに行っている。ハンドサッカーとは「手でも足でも、身体を動かせる部位を使って参加できる」競技であり、重度の障害があっても

ハンドサッカーで各校がしのぎ削る

激しい攻防が繰り広げられる
ハンドサッカーの試合



をきっかけに、全国からも興味を待たれている。

また、東京都では特別支援学校の卒業生たちが各学校を母体にしたながらOBOGチームを結成し、自主的に大会を開催するようになってきた。ハンドサッカー

チームスポーツに参加できるように工夫したゴール型の競技である。チームスポーツに参加できるように工夫したゴール型の競技である。チームスポーツに参加できるように工夫したゴール型の競技である。

毎年2月に都大会を開催し、都内の高等部を設置する全ての肢体不自由校（18校）が参加し、しのぎを削っている。競技として形ができて約30年の歴史があるが、2013年スポーツ祭東京で公開競技として発信したこと

みる・支える」側面を持つとはいえ、障害が重度であってもスポーツを「する」という思いは強い。今後も特別支援学校の児童・生徒がスポーツに取り組む環境を整備していく。

（三浦浩文・都立墨東特別支援学校校長）